



# 中川っ子だより

## ありがとう150周年!

教育目標 である (be) 学校から できる (can) 学校へ  
校 志 腰骨立てて「やさしく 強く より高く」



### 「ファットとマンの間に・は要りますか」

- ・私は長崎で、13歳の時に爆心地から東に3キロ余り離れた自宅で被爆した。一発の原子爆弾は身内5人を無残な姿に変え命を奪った。そのとき目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまだった。戦争といえどもこんな殺し方、傷つけ方をしてはいけなく強く感じた。
  - ・1956年8月に日本被団協を結成した。生きながらえた原爆被害者は歴史上未曾有の非人道的な被害を繰り返すことがないようにと、運動してきた。運動は「核タブー」の形成に大きな役割を果たしたことは間違いない。しかし、ウクライナ戦争におけるロシアによる核の威嚇、パレスチナ自治区ガザ地区にイスラエルが執拗な攻撃を続ける中、市民の犠牲に加えて「核のタブー」が壊されようとしていることに限りない口惜しさと憤りを覚える。
  - ・核兵器の保有と使用を前提とする核抑止論ではなく、一発たりとも持ってはいけないというのが原爆被害者の心からの願いだ。原爆被害者の平均年齢は85歳。10年先には直接の体験者としての証言ができるのは数人になるかもしれない。私たちの運動を、次の世代が工夫して築いていくことを期待している。
- 日本原水爆被害者団体協議会 田中代表委員のノーベル平和賞受賞演説要旨(一部):毎日新聞HP2024/12/10から引用

演説された田中熙巳(てるみ)さんは昭和7年生まれで、僕の亡き父母と同年代の方です。この日、僕は、田中さんの演説の様子をテレビのニュースで見ながら、母がよく夕食後に語ってくれた戦争体験(当時須磨区に住んでいて神戸の空襲を体験)と重ねていました。田中さんは演説の中で未来への願いも語られており、実際、受賞会場には被爆者の声を世界に伝える活動をしている高校生平和大使の姿もありました。

下欄は、令和4年度に本校が食育研究会を行った際、その研究冊子のあいさつに僕が記した文です。

昭和39年東京オリンピックの年に生まれた僕は、当時よく意味がわからなかったけど、安保闘争や大学紛争また関西フォークや集会・デモといった社会の中に育ち、この国の自由について考えさせられることが度々でした。神戸で空襲に遭った母親から当時の苦しい生活ぶりをよく聞かされていたことも強く影響しました。あの頃、僕にとって自由は国民規模のものだったのです。

この仕事についてからの僕は、時折、子供たちにその時々々の時事問題を取り上げて、朝学活の時間から1時間目の途中まで語るのが好きでした。それは、「みんなが大人になったら、どうか、みんなの力でもっとよりよい社会を作ってください。」という願いであり、教育基本法にある「国家及び社会の形成者」の育成を目指すためでした。でも今は、「社会の中におかしなことがあっても文句を言わないで、あなた自身はそこで与えられた役割をこなさない。」という空気を感ずることが多くなりました。

そして…。

### 「ファットとマンの間に・(てん)は要りますか」 問われてしばし 窓の外(と)を見る

これは、歌人染野太朗さんの短歌です。「ファットマン」とは、1945年8月9日に長崎市に落とされた原子爆弾のことです。先生は生徒たちに原子爆弾投下という事実についてしっかり考えてほしかった…。一般市民の大量虐殺という行為について、核兵器のすさまじい脅威について、そして、今もなお苦しみを負っている人々や憤りを感じている人々について…。ところが、生徒からの質問は「先生、ファットマンのファットとマンの間には・が要りますか。テストで不正解にたくないんで…」という内容でした。あまりのことに先生は愕然として、しばらく窓の外を見るしかなかった(言葉がなかった)…という状況だと解釈します。

「社会の中におかしなことがあっても文句を言わないで、あなた自身はそこで与えられた役割をこなさない。」という空気感が、この生徒の心の中に、“自分の幸福だけを考える功利性”を育んでしまっただけか、そんなことを考えさせられる短歌です。ここに、現代人のひ弱さも感じます。

「核兵器は一発たりとも持ってはいけない」、受け継いでいきたいのはこの“力強さ”なのです。

## オープンスクール

「低学年を含め、みんな授業態度はしっかりしており、日々の成長を感じた。先生方の尽力と御苦労に感謝する」  
 「普段は聞くことのない弁護士先生の話聞くことができ勉強になりました。家庭でもこの話を伝えようと思います」  
 2月7日(金)に開催しました、オープンスクールとPTA人権教育講演会のアンケートに上のような感想をいただきました。



いよいよ今年度も終わりに近づいたこの時期に、このような言葉をいただけることをありがたく思います。とても寒く足元の悪い日にもかかわらず多くの方に来校いただき、ありがとうございました。

## 岩津ねぎの収穫

「三里四方」という言葉があります。半径三里(12km)以内で栽培された野菜を食べていれば、丈夫でいられる、長生きできるという考えです。江戸時代に、生野銀山の労働者のための冬の生鮮野菜として、現在の朝来市岩津の元津地区で栽培をさせたのが、岩津ねぎの起こりとされることは、正に「三里四方」の考え方そのものです。2月18日(火)に3年生がりっぱに育った岩津ねぎを収穫しました。初夏の頃の、たよりなかつた苗がたくましく美味しそうに育ちました。お世話いただいた方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。



### 3月の主な行事予定

※学校ホームページにも掲載しています

1	土		17	月	
2	日		18	火	給食最終日 大掃除 金管
3	月	交通立番 体重測定 ステップアップタイム	19	水	卒業式準備
4	火	全校朝会 通級指導 金管	20	木	
5	水		21	金	卒業式
6	木	校外学習(3年) 委員会活動	22	土	
7	金	赤ちゃん先生(2年) 食育指導(6年) 金管	23	日	
8	土		24	月	修了式
9	日		25	火	春季休業日
10	月	5校時授業 SC来校	26	水	
11	火	5校時授業 児童朝会 通級指導 金管	27	木	3月10日(月)~14日(金) 「おかえりあいさつ運動」 を実施します。 ご協力、よろしくお願ひします
12	水	5校時授業 読み聞かせ	28	金	
13	木	5校時授業	29	土	
14	金	5校時授業 交通立番 金管	30	日	
15	土		31	月	
16	日				

### 【お知らせ】

○今年度の卒業式についてお知らせします。

- ①児童は全校生が出席します。
- ②来賓は、市長部局、市議会議員、本校の学校運営協議会の方々等、10名程度をご案内します。
- ③卒業生の各家庭からの出席者に人数制限は設けませんが、席数に限りがありますことご配慮願ひします。

○令和7年度の始業式は4月7日(月)、入学式は4月9日(水)です。

○学校HPの「◆R6:学校評価」に今年度の児童・保護者アンケート、教職員自己評価の集計結果を掲載しています。保護者の皆様ご協力ありがとうございました。可能な限り次年度以降の学校運営に反映させていくためにも、今後、校内の委員会で協議していきます。